

進行・再発非扁平上皮非小細胞肺癌における免疫チェックポイント阻害薬の有効性とTTF-1発現との関連性の研究

2016年1月1日から2021年12月31日までに非扁平上皮非小細胞肺癌で免疫チェックポイント阻害薬を使用した治療を受けた患者さま

研究協力をお願い

日本医科大学多摩永山病院呼吸器・腫瘍内科では「進行・再発非扁平上皮非小細胞肺癌における免疫チェックポイント阻害薬の有効性とTTF-1発現との関連性の研究」という研究を行います。この研究は、2016年1月1日から2021年12月31日までに当科にて非扁平上皮非小細胞肺癌に対して免疫チェックポイント阻害薬を使用した治療を受けられた患者さまの組織における肺の分化を制御し、肺腺癌の病理学的診断に用いられるThyroid transcription factor-1 (TTF-1)の発現と免疫チェックポイント阻害薬の治療効果を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡ください。

(1) 研究の概要について

研究課題名：進行・再発非扁平上皮非小細胞肺癌における免疫チェックポイント阻害薬の有効性とTTF-1発現との関連性の研究

研究予定期間：倫理委員会承認日～2024年3月31日

調査対象期間：2016年1月1日～2021年12月31日

研究責任者：日本医科大学多摩永山病院 呼吸器・腫瘍内科 久金 翔

(2) 研究の意義、目的について

進行・再発非扁平上皮非小細胞肺癌における免疫チェックポイント阻害薬あるいは化学療法＋免疫チェックポイント阻害薬の有効性とTTF-1発現との関係を明らかにすることを目的とします。本研究により肺癌における治療の最適化が促進されることが期待されます。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2016年1月1日より2021年12月31日までに日本医科大学多摩永山病院呼吸器・腫瘍内科にて、免疫チェックポイント阻害薬を使用した治療を受けられた患者さまのTTF-1発現、PD-L1発現などと免疫チェックポイント阻害薬の有効性との関連性を解析します。

この研究は、患者さまの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：手術、経気管支肺生検の検体

情報：年齢、性別、Performance Status、喫煙歴、病期、血液検査所見、画像検査所見、病理組織所見、治療レジメン、治療効果、無増悪生存期間、全生存期間など

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

(6) 問い合わせ等の連絡先

担当者：呼吸器・腫瘍内科 久金 翔

日本医科大学多摩永山病院 倫理委員会事務局

〒206-8512 東京都多摩市永山 1 丁目 7-1
電話番号：042-371-2111 (代表) 内線：2302
メールアドレス：nagayama-chiken_center@nms.ac.jp